

# 令和4年度「高校生熟議2022」開催

令和5年3月14日（火）新南陽高校において開催された高校生熟議の様子について紹介します。9名からなる全8グループ（グループ構成例…1・2学年の生徒7名、学校運営協議会委員またはPTA1名、教員1名）に分かれ、「これからの学校行事でコロナとどう向き合うのか」というテーマで、各グループの「企画案」作成に向けて熟議が行われました。総合同会者（代表生徒）による全体進行及び各班の議



論を促進させる役割のファシリテーター（あらかじめ研修に参加した生徒会役員）の進行により、参加者全員が意見を出し合いました。

前半（第1ラウンド）「約30分」では、現状や課題について出し合い、後半（第2ラウンド）「約30分」では、課題等の解決のための具体的なアイデアを出し合いました。そして最後に、各グループの発表（各2〜3分）が行われました。発表では、学年間の交流を活性化するため「行事の内容や種目等を工夫したり、複数日の開催にしたりする」、「校歌」を覚える機会が少ないので、「合唱コンクールで『校歌』を課題曲にし、卒業生も交えた企画を考える」等の企画が提案されました。

次に、山口中央高校の取組についてです。同じく令和5年3月14日（火）に「山口中央高校のChallenge」今



改善できることは何か？」というテーマで熟議が行われました。第1ラウンドでは「山口中央高校の課題」について出し合って話し合い、その内容をもとに、第2ラウンドで「課題解決への企画案作成」に向けて熟議が行われました。

7名からなる7グループ（グループ構成例…1・2年の生徒4名、3年生（卒業生）1名、PTA役員1名、教員1名）に分かれ、総合同会者（代表生徒）やファシリテーター（生徒会役員）の進行により、取組の「企画案」を立案しました。そして各グループの発表では、学校内外の交流や情報発信のため「ホームページの有効活用を推進する」、ジェンダー平等の観点からも「制服をリニューアルし、選択肢を増やす」などの企画が提案されました。両校とも、高校生目線や保護者・地域目線、教員目線で、参加者がそれぞれの思いを自由に述べ合い、共有しあうことにより、学校の課題や良い点、生かしたい点などについて考えたり、

気づいたり、提案したりすることで実りの多い熟議となりました。

高P連の後援による「高校生熟議」は、新南陽高校では3回目、山口中央高校では2回目の取組です。コロナ禍の中、三密防止対策を十分にを行った上で実施しました。高校生熟議は、山口県や地元地域における様々な課題について高校生目線で主体的に考えることを通して、生徒たちのコミュニケーション能力を育み、主体的思考力や社会参画

意識を高めるといふことを目的の一つとしている取組です。今後、さらに多くの学校において熟議が開催されますようご検討をお願いいたします。

